

2015年3月期 決算説明会



2015年5月12日



(証券コード：7537 東証1部)

2015年3月期 連結決算概要

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・ 2014年度決算につきましてご説明いたします。

2015年3月期 連結決算サマリ

売上高は、198億円増（+7.6%）の2,803億円

- **デバイス事業** 通信モジュール・プロジェクタ向け特定用途ICや自動車・産業機器向け半導体の増加で9.4%増
- **システム事業** 医用機器や航空宇宙機器、レーザ機器の減少で2.1%減

営業利益は、7.7億円増（+19.9%）の46億円

経常利益は、1.2億円増（+3.1%）の40億円

- **6期連続の増益達成**
- **為替差損** 期中の急激な為替変動により為替差損9億円を計上

当期純利益は、6千万円増（+3.2%）の20.7億円

2015年3月期 業績サマリ

(百万円)	14/3月期		15/3月期		対前年同期比		【ご参考】 15/3月期 業績予想	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	(14/10予想)	構成比
売上高	260,424	100.0%	280,320	100.0%	19,896	7.6%	263,000	100.0%
デバイス事業	220,325	84.6%	241,065	86.0%	20,740	9.4%	223,500	85.0%
システム事業	40,098	15.4%	39,254	14.0%	△ 844	-2.1%	39,500	15.0%
売上総利益	18,842	7.2%	19,560	7.0%	718	3.8%	19,100	7.3%
販売管理費	14,930	5.7%	14,871	5.3%	△ 59	-0.4%	15,000	5.7%
人件費	9,437	3.6%	9,179	3.3%	△ 258	-2.7%	-	-
その他	5,493	2.1%	5,692	2.0%	199	3.6%	-	-
営業利益	3,912	1.5%	4,688	1.7%	776	19.9%	4,100	1.6%
営業外収益	708	0.3%	795	0.3%	87	12.3%	-	-
営業外費用	675	0.3%	1,417	0.5%	742	109.9%	-	-
経常利益	3,944	1.5%	4,066	1.5%	122	3.1%	4,000	1.5%
特別利益	12	0.0%	7	0.0%	△ 5	-41.7%	-	-
特別損失	70	0.0%	110	0.0%	40	57.1%	-	-
当期純利益	2,008	0.8%	2,071	0.7%	63	3.2%	2,100	0.8%
期末従業員数 (名)	1,245	—	1,236	—	△ 9	-0.7%	—	—

www.marubun.co.jp

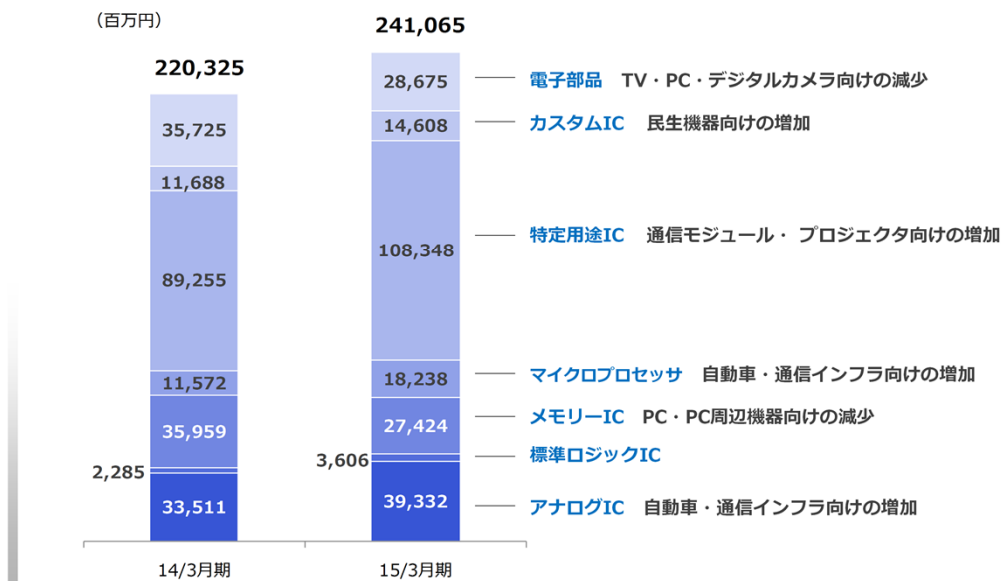
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

4

- ・ 連結売上高は、前年度に比べ7.6%増の2,803億円になりました。
- ・ これは、前年度に引き続き通信モジュール向けの特定用途ICが好調を維持したことに加え、自動車・産業機器・プロジェクタ向けの半導体が伸長したことによるものです。
- ・ 営業利益は、売上の増加と円安による利益の押し上げ効果により19.9%増の46億円となりました。
- ・ 経常利益は、急激な為替相場の変動に伴い為替差損9億円を計上しましたが、3.1%増の40億円を確保し、6期連続の増益を達成しました。

2015年3月期 デバイス事業品目別売上高



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

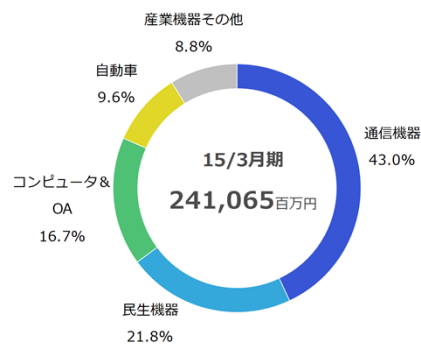
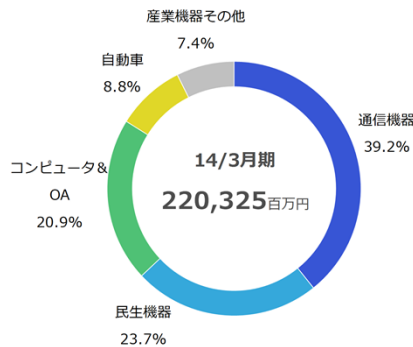
丸文株式会社

5

- ・ デバイス事業ですが、売上は207億円増加の2,410億円となりました。
- ・ アナログICは、自動車や通信インフラ向けが増加しました。
- ・ メモリーICは、PCや周辺機器向けのDRAM、フラッシュメモリーが減少しました。
- ・ マイクロプロセッサは、自動車や通信インフラ向けが好調に推移しました。
- ・ 特定用途ICの大幅な増加は、通信モジュール向けやプロジェクト向けの需要増によるものです。
- ・ また、電子部品では、TVやPC、デジタルカメラ市場の低迷を受け、LCDパネルが減少しました。

2015年3月期 デバイス事業用途別市場動向

用 途		市 場 動 向
通信機器	→	通信モジュールや通信基地局向けが増加
民生機器	→	TV・デジタルカメラ向けが減少、ゲーム機向けが増加
コンピュータ&OA	→	プロジェクト向けが増加、PCおよび周辺機器向けが減少
自動車	→	ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加
産業機器その他	→	FA機器向けが増加



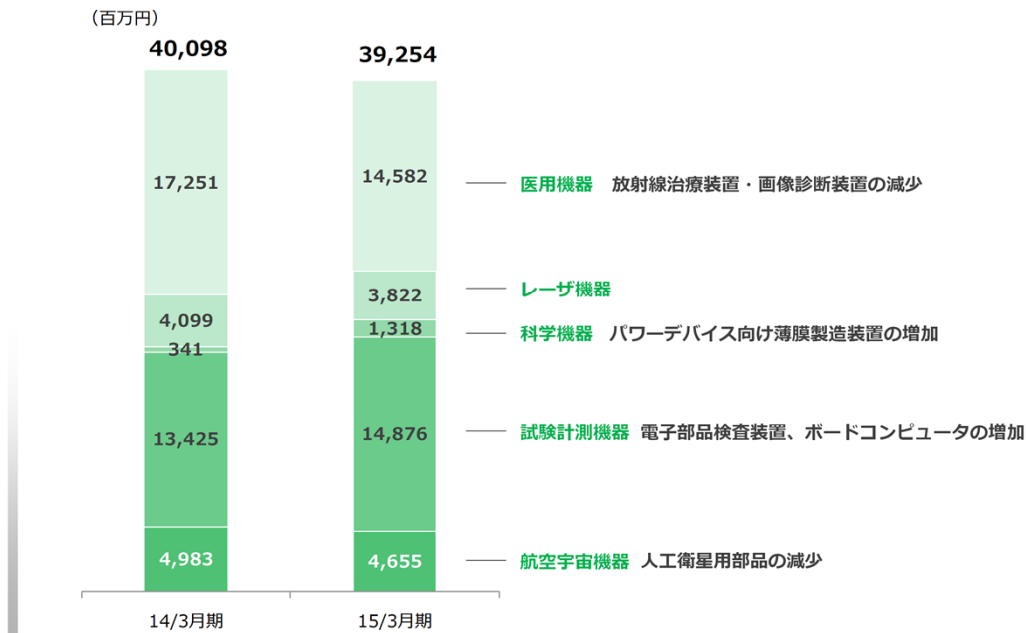
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

6

- ・用途別の動向についてご説明いたします。
- ・2014年度は当社が注力している通信、自動車、産業機器向けの売上が伸長しました。
- ・売上構成比はご覧の通りです。
- ・通信機器は、通信モジュールや通信インフラ向けが増加しました。
- ・自動車は、ナビゲーションやエンジンコントロール向けでデザインインが進み、需要が増加しました。
- ・産業機器はFA機器向けを中心に好調に推移しました。
- ・一方、コンピュータ・OAは大幅に減少しました。
- ・これは前年度末に、消費増税やウィンドウズXPのサポート終了に伴う需要が発生したことで、2014年度のパソコン出荷台数が減少した影響によるものです。

2015年3月期 システム事業品目別売上高



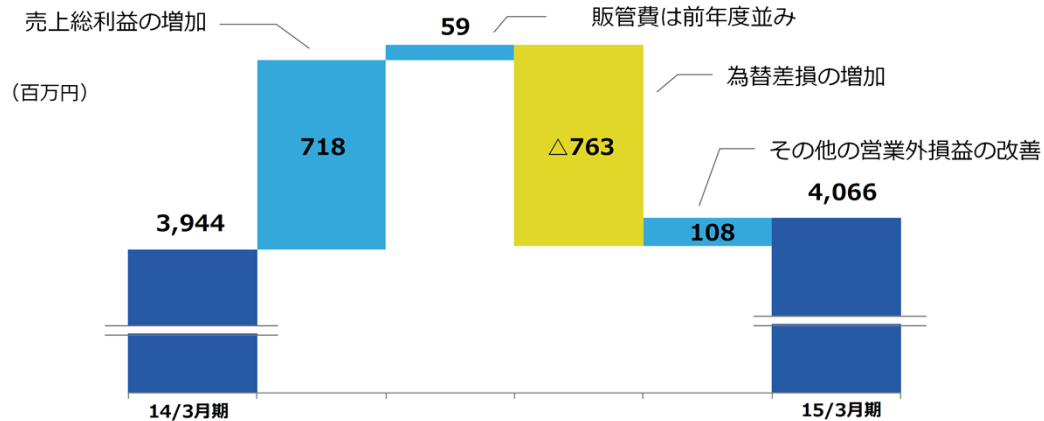
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

7

- ・ システム事業は、売上は8億円減少の392億円となりました。
- ・ 航空宇宙機器は、国家プロジェクトの端境期であったため、人工衛星用部品が減少しました。
- ・ 試験計測機器は、設備投資の回復により、スマートフォンやタブレット向けの電子部品検査装置の売上が増加しました。
- ・ 科学機器は、パワーデバイス向け薄膜製造装置の需要が回復しました。
- ・ 医用機器の減少は、2013年度に各種交付金や消費増税前の駆け込み需要により売上げが伸長したことの反動減によるものです。

2015年3月期 経常利益の増減要因



売上総利益 売上増加および円安効果による増加
 利益率はプロダクトミックスの変化により低下
 14/3月期：188億円（7.2%） ⇒ 15/3月期：195億円（7.0%）

営業外損益 為替差損
 急激な円安進行による外貨建て決済差損等 903百万円

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

8

- ・ 経常利益の増減要因についてご説明いたします。
- ・ 売上総利益については、前年度に比べ7億の増加となりました。
- ・ 売上総利益率は、利益率の低い商品が増加したことにより、7.2%から7.0%に低下しました。
- ・ 販管費は売上の増加に伴って営業活動費が増加しましたが、退職給付費用等の減少により、前年度並みを維持しました。
- ・ 営業外損益は為替差損が前年度の1億4千万円から9億円へと増加しました。
- ・ 以上の結果、経常利益は40億円となりました。

2015年3月期末 貸借対照表の概要

(百万円)	14/3月期末 実績	15/3月期末 実績	対前期末比 増減額
流動資産	99,510	117,084	17,574
現金及び預金	19,151	21,725	2,574
受取手形及び売掛金	60,944	63,393	2,449
たな卸資産	16,931	28,987	12,056
その他	2,484	2,978	494
固定資産	11,124	11,228	104
有形固定資産	4,277	4,232	△ 45
無形固定資産	402	448	46
投資その他資産	6,445	6,548	103
資産合計	110,635	128,313	17,678
流動負債	65,114	72,594	7,480
支払手形及び買掛金	39,910	52,978	13,068
短期借入金等	22,143	16,306	△ 5,837
その他	3,061	3,461	400
固定負債	3,050	9,416	6,366
長期借入金等	1,013	7,507	6,494
退職給付に係る負債	1,330	1,194	△ 136
その他	707	714	7
負債合計	68,165	82,010	13,845
純資産合計	42,469	46,302	3,833
負債純資産合計	110,635	128,313	17,678

半導体在庫の増加

半導体需要増による仕入れの増加

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

9

- ・ 貸借対照表の主要科目についてご説明いたします。
- ・ 総資産は、棚卸資産や現預金、売掛債権の増加により前年度末に比べ175億円の増加となりました。
- ・ 在庫は、今年度売上が見込まれているPC向けメモリーの一括仕入れ等により118億円の増加となりましたが、在庫回転月数は1.3カ月で適正水準を維持しております。
- ・ 負債については、仕入債務の増加により、前年度末に比べ138億円の増加となりました。
- ・ 借入については、短期借入金が58億円減少する一方、借りかえにより長期借入金が64億円増加しました。

2015年3月期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	14/3月期 実績	15/3月期 実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,999	2,255
税引前当期純利益	3,886	3,963
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 10,445	△ 1,212
たな卸資産の増減額 (△は増加)	9,089	△ 11,629
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,604	12,382
その他	△ 1,135	△ 1,249
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 162	△ 243
フリー・キャッシュ・フロー	5,837	2,012
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,382	△ 1,514
現金及び現金同等物の増減額	1,565	2,536
現金及び現金同等物の期末残高	18,976	21,512

半導体在庫の増加

半導体需要増による増加

www.marubun.co.jp

- ・ キャッシュフローの状況についてご説明いたします。
- ・ 営業キャッシュフローは、22億円の資金の流入となりました。
- ・ これは主に、税金等調整前当期純利益が39億円となった一方で、棚卸資産や仕入債務が増加したことによるものです。
- ・ 投資キャッシュフローは、2億円の流出となり、この結果、フリーキャッシュフローは20億円になりました。
- ・ 財務キャッシュフローは、15億円の資金の流出となりました。

中期ビジョン 事業戦略と重点施策の進捗

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・ 中期経営計画の取り組みについてご説明いたします。

中期経営計画の概要

ビジョン

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

スローガン

Think & Action (T & A)

構造変化をチャンスと捉え
経営改革を加速 & 攻めの経営でチャレンジ

デバイス事業 4つのT & A

- ① ベースビジネスの拡大
- ② 成長市場への対応強化
- ③ 新規商材の開発推進
- ④ グローバル対応の強化

システム事業 3つのT & A

- ① エンジニアリングサービス拡充
- ② システムインテグレーション強化
- ③ 商品ラインナップ増強

2017年3月期 経常利益目標 60億円

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

12

www.marubun.co.jp

- ・皆さまご存じの通り、昨年度は半導体メーカー間の経営統合やお客様である電機メーカーの組織再編、事業売却などの動きが活発になり、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しました。
- ・また半導体商社でも、メガディストリビュータによる国内企業の買収や国内企業同士の経営統合が進み、さらなる業界再編も予想される状況にあります。
- ・変化が次々と押し寄せる事業環境の中で、私は構造変化をチャンスととらえ、経営改革の流れを一層加速し、攻めの経営へのチャレンジを続けてまいります。
- ・中期ビジョン「持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現」を目指すため、「Think & Action」、略して「T&A」の取り組み状況についてご説明いたします。
- ・ご覧の通り、デバイス事業では4つのT&A、システム事業では3つのT&Aに取り組んでおります。

デバイス事業 4つのT & A ① ベースビジネスの拡大



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

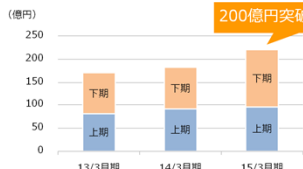
丸文株式会社

13

- ・ デバイス事業の進捗からご説明いたします。
- ・ 1点目は「ベースビジネスの拡大」です。
- ・ ビジネス基盤の強化を行うため、当社はSFAによる案件管理や仕入先メーカーとの戦略共有化を図ったKPIの導入、採算管理の徹底による意識改革を進めてまいりました。
- ・ 併せて、お客様プロジェクト単位での当社製品採用数の拡大を図るため、技術サポート体制の整備やFAEの増強、アプリケーション提案力の強化に取り組んでいます。
- ・ そうした活動が仕入先・お客様から評価され、商権の拡大と収益力の強化を図ることができました。
- ・ お客様とサプライヤの双方から信頼される、戦略的ベストパートナーとなるよう取り組みを一層強化してまいります。

デバイス事業 4つのT & A ② 成長市場への対応強化

注
力
市
場

通信分野	IoT*に着目 オリジナル評価ボードの開発、各種ソリューション紹介により市場開拓が進捗													
自動車分野	ADAS*など次世代技術向けの取組みを強化 - 差別化分野であるカーナビのシステムやメーターパネル、エンジンコントロール分野が寄与 - 北米や東南アジアなど海外市場での取組みを強化	(億円)  200億円突破 <table><tr><th>期間</th><th>上期</th><th>下期</th></tr><tr><td>13/3月期</td><td>~50</td><td>~100</td></tr><tr><td>14/3月期</td><td>~100</td><td>~150</td></tr><tr><td>15/3月期</td><td>~150</td><td>~220</td></tr></table>	期間	上期	下期	13/3月期	~50	~100	14/3月期	~100	~150	15/3月期	~150	~220
期間	上期	下期												
13/3月期	~50	~100												
14/3月期	~100	~150												
15/3月期	~150	~220												
産業機器分野	FA機器向けに注力 - サーボモータ、シーケンサ向けが好調 - 各種センサなど製品の拡充													
医療機器分野	内視鏡や高度医療機器分野での案件開発 日本が先進する分野での案件開発が進み、今後の加速に期待													

*IoT Internet of Things 様々なモノをネットワーク接続して認識・制御する技術

*ADAS Advanced Driving Assistant System 自動運転などの先進運転支援システム

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

14

- ・2点目は「成長市場への対応」です。
- ・当社ではご覧の4つの分野を注力市場とし、取り組みを進めてまいりました。
- ・通信向けでは、IOTに着目し、オリジナル評価ボードの開発や展示会での当社ソリューションの紹介を行い、市場開拓を進めております。
- ・自動車向けでは、当社が得意とするカーナビなどのインフォテイメントシステムやメーターパネル、エンジンコントロールで着実に採用が進み、昨年度は自動車向けの売上が200億円を突破しました。
- ・足元では数年後の立上げに向けてADAS関連でのデザインインが進んでいます。今年度は品質管理機能を一層強化し、付加価値を高めたビジネスを展開してまいります。
- ・また産業機器では、FAのサーボモーターやシーケンサ向けの拡販に取り組み、医療機器では、内視鏡やヘルスケアなど日本企業が得意とする製品での案件開発が進んでいます。
- ・今後もセグメント戦略に立脚したソリューションの開発を促進していく予定です。

デバイス事業 4つのT & A ③ 新規商材の開発推進

米国・台湾・中国を中心に50社以上の最新技術、最新製品をソリューション展開

半導体	- OpenSilicon社（カスタムIC） - Baysand社（カスタムIC） - SanDisk社（Flash/SSD） ⇒ 本格立ち上げ	 Baysand社 ASIC
電子部品	- Eink社（電子ペーパー） - Molex社（コネクタ） - IDT社（タイミングデバイス） - CNI社（カバーガラス） ⇒ 商権・商機拡大	 Eink社 電子ペーパー
環境	Winaico社 他（太陽光パネル） ⇒ 大手販売パートナー提携 住宅向け参入	 Solar 営農

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

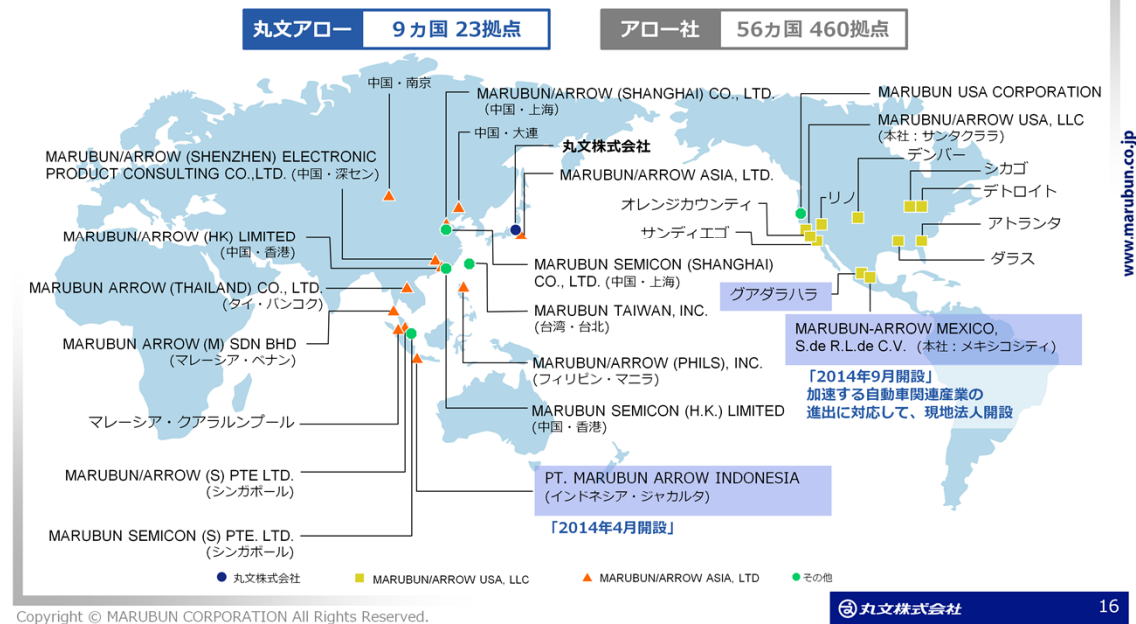
丸文株式会社

15

- ・3点目の「新規商材の開発推進」については、お客様からの最新技術へのニーズの高まりを受け、米国や台湾、中国を中心に、商材開発を精力的に進めています。
- ・常に50社以上をリストアップし、技術や製品の評価、お客様へのプレマーケティングを行っております。
- ・今年度はOpenSilicon社とBaysand社のカスタムICや不揮発性メモリーのSanDisk社のビジネスが本格的に立ち上がる予定です。
- ・また、コネクタのMolex社やタイミングデバイスのIDT社についても商権拡大で売上と利益に貢献する見込みです。
- ・中国CNI社のカバーガラスについても、スマートフォン向けで採用が決まっており、初年度から売上に寄与する見込みです。
- ・太陽光パネルのビジネスも大手の販売パートナーとの提携による販路拡大で、軌道に乗りつつあります。メガソーラーや農地向けに加え、今後は住宅向けにも対象を広げ、事業規模拡大を図ります。
- ・そのほかにもユニークな技術を使った競争力のある商材の立上げを予定しており、今後はさらに新規商材の開発を加速していく予定です。

デバイス事業 4つのT & A ④ グローバル対応の強化

アロー社の豊富な商材、拠点、物流情報インフラを活用し、海外サポート力を一層強化



- ・ 4点目は「グローバル対応の強化」です。
- ・ 国内市場の縮小が懸念される一方、アジアなど海外市場では成長が続いています。
- ・ 当社では昨年、インドネシアとメキシコに拠点を新設し、グローバル展開を拡充しました。
- ・ 丸文アローでは、アロー社が有する豊富な商材と世界56か国460カ所の拠点や物流・情報インフラを活用し、日系企業の海外展開にスピーディかつフレキシブルに対応することが可能です。
- ・ これらの優位性を武器に、他社との差別化やお客様との一層の関係強化を図っていきたいと考えています。

システム事業 3つのT & A

「カスタマーイン」の発想

顧客ごとに違うニーズに対応できるサービスとソリューションの提供による差別化の推進

① エンジニアリング
サービス拡充

② システムインテグ
レーション強化

③ 商品ラインナップ
増強

Best Partner
顧客


www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

17

- ・次にシステム事業の3つのT&Aについてご説明いたします。
- ・システム事業では、「カスタマーイン」の発想で、エンジニアリングサービスの拡充やシステムインテグレーションの強化に取り組んでおります。
- ・個々のお客様ニーズに対応したサービスの開発、ソリューションの提供による差別化を推進するとともに、製品群の拡充を進めてまいります。

システム事業 製品分野ごとの取組み

レーザ機器	- 産業機器向け組込み用半導体レーザの拡販 - オリジナルレーザ微細加工装置の受注促進 - ネットワーク監視装置や時刻認証システムなど採用促進
産業機器	- 不具合解析システムや高信頼性検査装置の拡販 - ジェネリック薬品向け分析機器の売込強化
航空宇宙機器	- 人工衛星・防衛向け高付加価値製品の拡販 - 海外発電プラント向け電力測定器のビジネス拡大
医療機器	- MRIやCTスキャンの拡販 - 高度な技術サポートで差別化



組込み用半導体レーザ



赤外線発熱解析装置



放電測定器



画像診断装置

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

18

- ・製品分野ごとの取組みをご説明します。
- ・レーザ機器では、産業機器向けの組込み用半導体レーザの拡販を進めております。お客様での装置量産が昨年度よりスタートし、今年度は一層の伸長を見込んでいます。
- ・また当社オリジナルのレーザ微細加工装置では、プリンタやディスプレイ向けの受注に注力しています。
- ・さらにICT機器では、東京オリンピックに向けた情報通信設備の投資拡大が見込まれており、ネットワーク監視装置や時刻認証システムなど各種ネットワーク機器の拡充と採用促進に取り組んでいく方針です。
- ・産業機器では、CMOSセンサなど日本企業が競争力を持つデバイスの製造向けに、不具合解析システムや高信頼性検査装置の拡販に注力しています。
- ・また、ジェネリック薬品向けの分析機器も好調で、売込み活動を強化しています。
- ・航空宇宙機器は、人工衛星、防衛分野で高付加価値製品の販売に注力するとともに、発電所向けの電力測定器では、海外プラント向けにビジネス拡大が期待できる状況にあります。
- ・医用機器については、北陸地区で病院の設備増強や新築・建替え需要が高まっており、MRIやCTスキャンなど大型画像診断装置を中心に拡販を進めています。医療学会への出席やメーカー研修への技術者派遣によるライセンス取得、24時間体制でのメンテナンスサービスの提供など、技術商社として付加価値の高い事業展開を進めてまいります。
- ・仕入先・お客様双方との信頼関係を高め、更なる事業拡大を図っていきたいと考えております。

2016年3月期 連結業績予想概要

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・ 事業戦略に基づく今年度の見通しについてご説明いたします。

2016年3月期 業績予想サマリ

売上高は、2,700億円（-103億円）の見込み

- **デバイス事業** 自動車・産業機器・通信インフラ向け半導体の増加、通信モジュール向け・PC向けが減少
- **システム事業** 持分法適用会社の子会社化による増加、医用機器で画像診断装置等の増加

営業利益は、45億円（-1.3億円）の見込み

- **売上総利益率** 高収益ビジネスへのシフトによる改善
- **販管費** 持分法適用会社の子会社化や人件費増などによる増加

経常利益は、45億円（+4.3億円）の見込み

- **為替差損** 前期の為替差損（9億円）の解消

当期純利益は、25.5億円（+4.7億円）の見込み

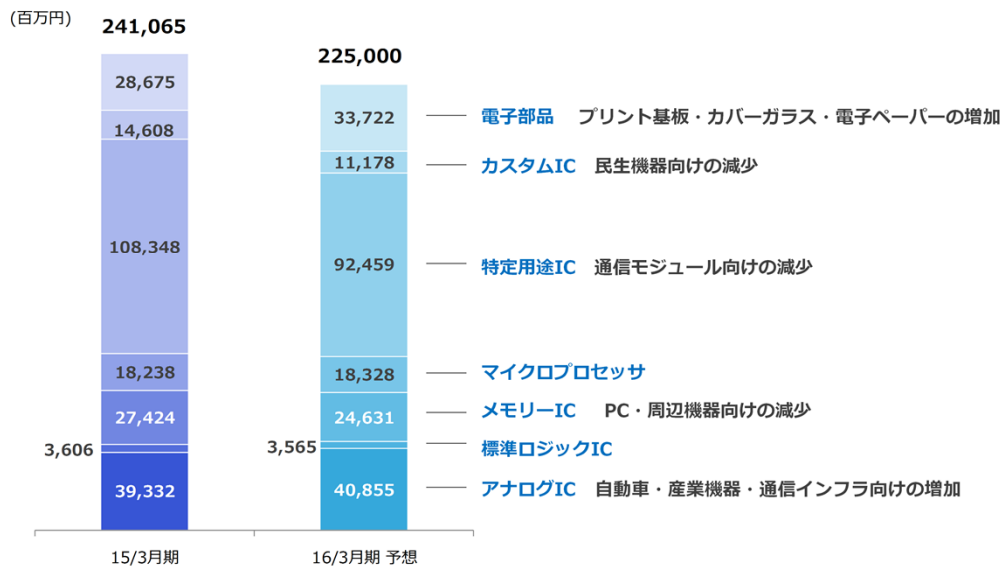
2016年3月期 業績予想

(百万円)	15/3月期		16/3月期		前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	%
売上高	280,320	100.0%	270,000	100.0%	△ 10,320	-3.7%
デバイス事業	241,065	86.0%	225,000	83.3%	△ 16,065	-6.7%
システム事業	39,254	14.0%	45,000	16.7%	5,746	14.6%
売上総利益	19,560	7.0%	20,000	7.4%	440	2.2%
販売管理費	14,871	5.3%	15,450	5.7%	579	3.9%
営業利益	4,688	1.7%	4,550	1.7%	△ 138	-2.9%
営業外収益	795	0.3%	550	0.2%	△ 245	-30.8%
営業外費用	1,417	0.5%	600	0.2%	△ 817	-57.7%
経常利益	4,066	1.5%	4,500	1.7%	434	10.7%
特別利益	7	0.0%	0	0.0%	△ 7	-
特別損失	110	0.0%	0	0.0%	△ 110	-100.0%
当期純利益	2,071	0.7%	2,550	0.9%	479	23.1%

www.marubun.co.jp

- ・売上高は、昨年度好調だった通信モジュール向け半導体の需要を保守的に見積もり、前年度に比べ103億円減の2,700億円の予算を組みました。
- ・利益面では、高収益ビジネスへのシフトによる売上総利益の増加を見込んでおりますが、今後の事業拡大に向けた人的投資を増やすため、営業利益は前年度並みにとどまる見通しです。
- ・一方、経常利益では前年度に計上した為替差損が減少するため、4億円増の45億円となる見込みです。

2016年3月期 デバイス事業品目別売上高予想



www.marubun.co.jp

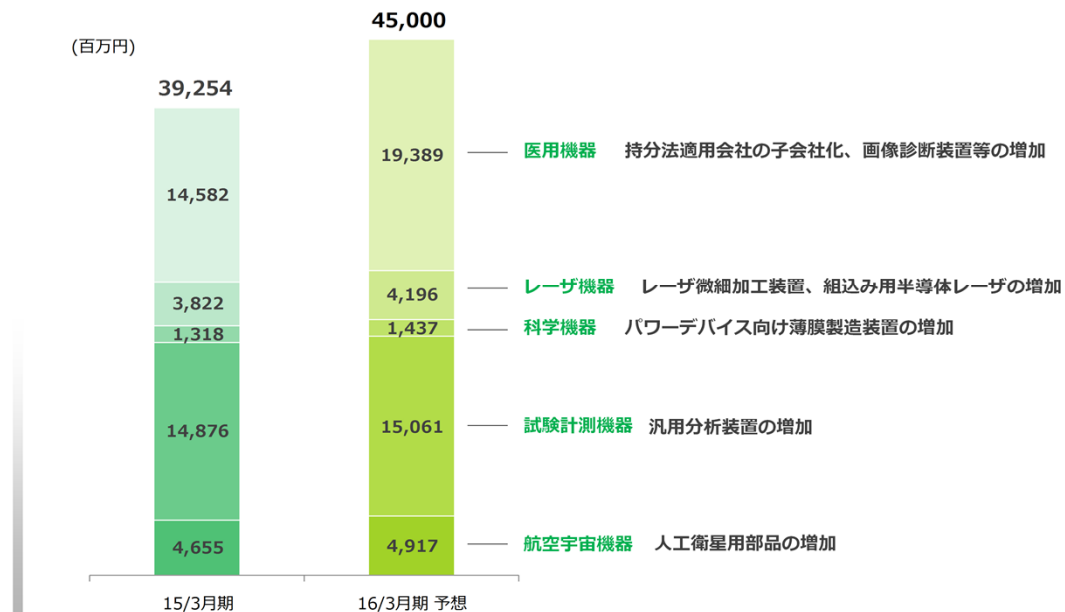
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

22

- ・ デバイス事業では、前年度に比べ160億円減少の2,250億円を予想しております。
- ・ アナログICは、注力市場である自動車や産業機器、通信インフラ向けでの増加を見込んでおります。
- ・ メモリーICは、PCおよび周辺機器向けが減少する見込みです。
- ・ 電子部品は、LCDパネルの減少を見込む一方、電子ペーパーや太陽光パネル、カバーガラスなどの増加を見込んでおります。

2016年3月期 システム事業品目別売上高予想



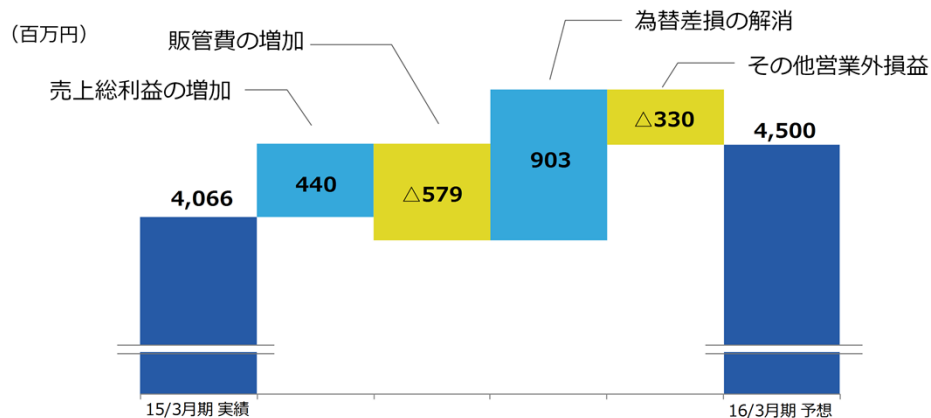
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

23

- ・ システム事業の売上については、前年度に比べて57億円増加の450億円を見込んでおります。
- ・ 試験計測機器は、販売エリア拡大による分析機器の増加を見込んでおります。
- ・ レーザ機器は、微細加工装置や組込み用半導体レーザの増加を予想しています。
- ・ 医用機器は、画像診断装置等の増加に加え、従来持分法適用関連会社であった新潟県の池田医療電機を子会社化することにより、売上が増加する見込みです。

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	売上利益率の改善による増加 15/3月期：7.0% ⇒ 16/3月期予想：7.4%
販管費	持分法適用会社の子会社化や人件費増などによる増加 15/3月期：148億円 ⇒ 16/3月期予想：154億円
営業外損益	為替差損の解消 15/3月期：9億円 ⇒ 16/3月期予想：差損解消

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

24

- ・ 経常利益の増減要因についてはご覧のとおりです。
- ・ 売上総利益については、前年度より4億円の増加を見込んでおります。
- ・ 販管費は、持分法適用関連会社の子会社など人件費や営業活動経費の増加により6億円増加する見通しです。
- ・ 為替差損は前期9億円の差損の解消を見込んでおります。
- ・ 以上の結果、前年度より4億円増の45億円の経常利益を予想しております。

株主還元

● 配当方針の見直し

配当性向	連結 25% 以上もしくは 単体 30% 以上の多い方
	連結 30% 以上

● 配当予想

(円)	2015年3月期	2016年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	20.00	30.00
中間配当	7.00	12.00
期末配当	13.00	18.00

10円
増配

- ・株主の皆様への利益還元についてご説明いたします。
- ・2014年度の期末配当は13円とし、年間では20円とする予定です。これは2013年度に比べ、1円の増配となります。
- ・今年度につきましては、配当方針を連結配当性向30%以上に変更し、株主の皆様へのより一層の利益還元を図ってまいります。
- ・配当は中間12円、期末18円、合わせて年間30円とし、昨年度より10円の増配を予定しております。
- ・業績の向上にまい進し、皆さまのご期待に応えてまいりたいと考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

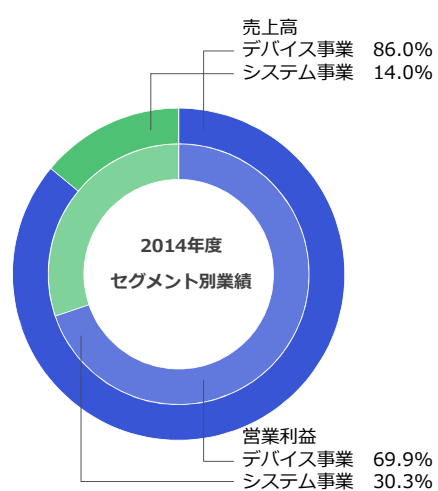
参考情報

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

会社概要

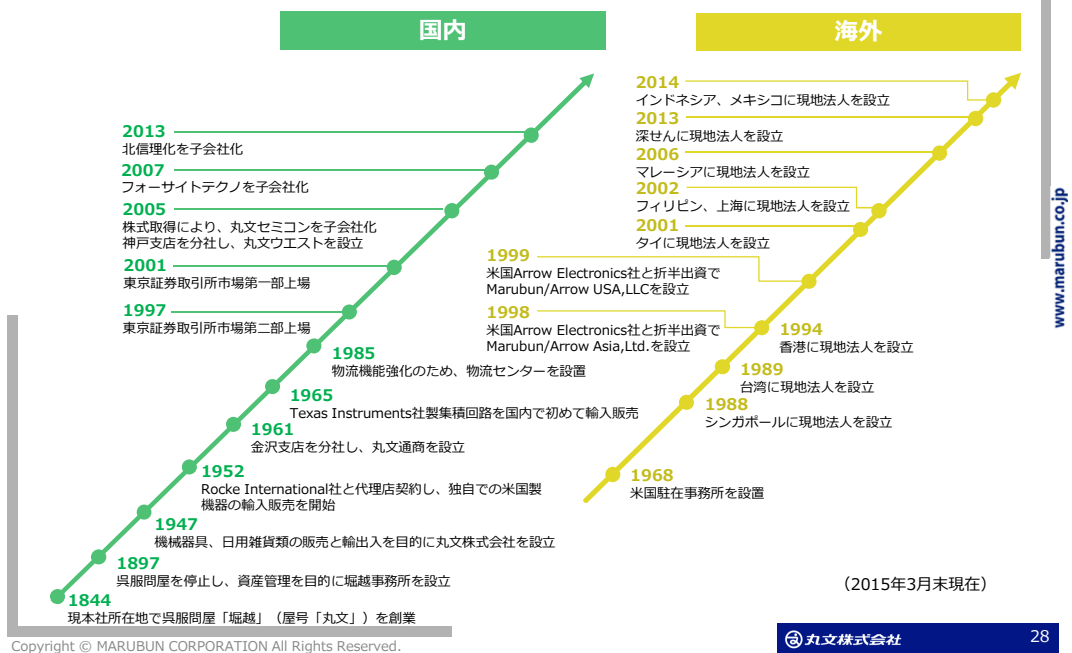
- 設立 1947年7月
- 資本金 62億円
- 事業内容 最先端エレクトロニクス
機器・部品の販売
- 本社所在地 東京都中央区日本橋
大伝馬町8-1
- 連結売上高 2,803億円（2015年3月期）
- 従業員数 1,236人（2015年3月末現在）



www.marubun.co.jp

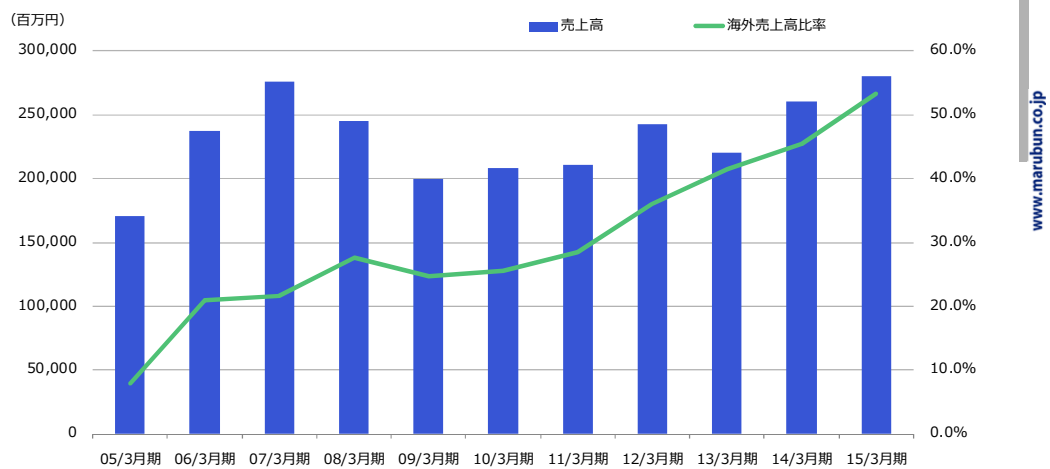
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

事業の変遷



中長期業績トレンド

日系電子機器メーカーへの海外展開サポート推進により海外売上高比率が増加



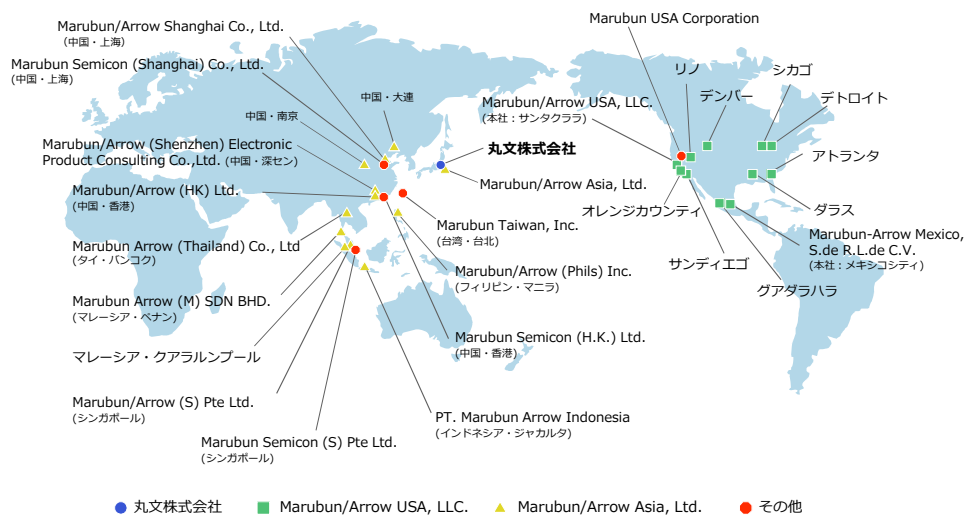
国内ネットワーク

- 支社、支店、営業所
- ▲ 物流センター
- 関係会社



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

グローバル・ネットワーク

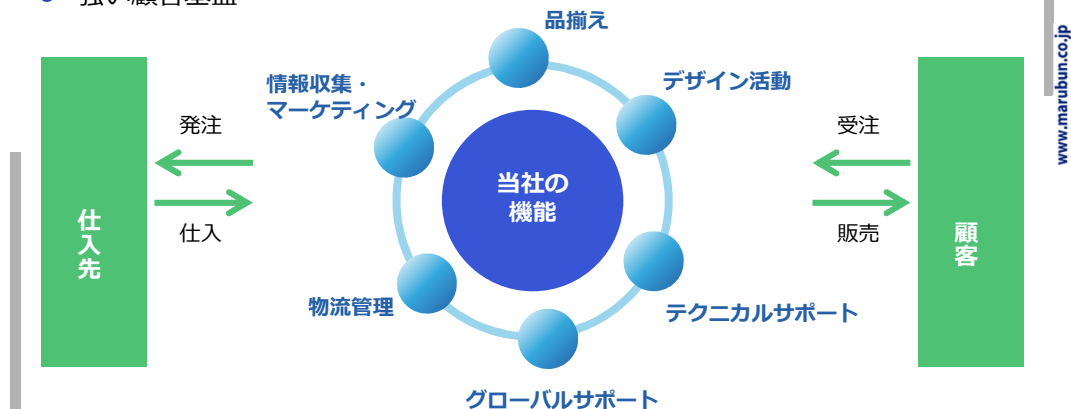


(2015年3月末現在)

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社との提携によるグローバルネットワーク
- 強い顧客基盤



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

32

デバイス事業：グループ会社概要

社名	住所	設立年月	出費比率	事業内容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	
Marubun Semicon (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co., Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	Mexico City, MEXICO	2014年9月	50.0%	
FTS株式会社*	東京都品川区	2006年11月	29.3%	半導体の研究・開発、開発支援

* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、FTS(株)は持分法適用関連会社

(2015年3月末現在)

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

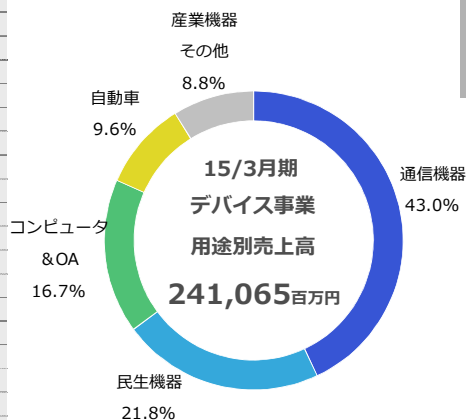
33

デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）



デバイス事業

	用 途				
	通信機器	民生機器	コンピュータ & OA	自動車	産業機器
半導体					
アナログIC	アナログ	●	●	●	●
	ディスクリート	●		●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●
メモリIC	DRAM	●	●	●	
	フラッシュ	●	●		
マイクロ	MPU、MCU	●	●	●	●
プロセッサ	DSP	●	●	●	●
	ASSP	●		●	
特定用途IC	ディスプレイ・ドライバ	●	●	●	
	DMD		●		●
	LED		●		
カスタムIC	●	●	●	●	
電子部品					
液晶パネル	●	●	●	●	●
有機EL	●	●			
水晶デバイス		●		●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板	●	●			



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

34

デバイス事業：主要取扱い製品（サプライヤ別）



デバイス事業

		サプライヤ（五十音順）									
		旭化成 エレクトロニクス	ISSI（米国）	インターナショナル レクティファイアー （米国）	サムスン電子（韓国）	セイコーエプソン	テキサス・ インスツルメンツ （米国）	トライウィント（米国）	フリースケール（米国）	ブロードコム（米国）	マキシム（米国）
半導体											
アナログIC	アナログ	●				●	●	●			●
	ディスクリート			●				●			
標準ロジックIC											
メモリIC	DRAM		●		●		●				
	フラッシュ				●						
マイクロ	MPU、MCU					●	●	●			
プロセッサ	DSP	●					●	●			
	ASSP	●				●	●	●	●		●
特定用途IC	ディスプレイ・ドライバ				●	●	●				
	DMD						●				
	LED				●						
カスタムIC											
電子部品											
液晶パネル											
有機EL											
水晶デバイス											
コネクタ・スイッチ・プリント基板											

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

35

システム事業：特徴と強み

システム事業

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

36

システム事業：グループ会社概要

システム事業

社名	本社	設立年月	出資比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器、試験計測機器及び電子部品の仕入販売
株式会社 北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 池田医療電機*	新潟県新潟市	1961年8月	41.0%	医用機器などの販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	機器の据付・保守を含めたエンジニアリングサービス提供

* 持分法適用関連会社

(2015年3月末現在)

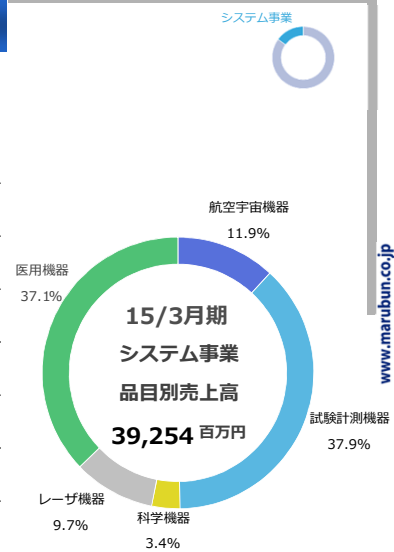
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

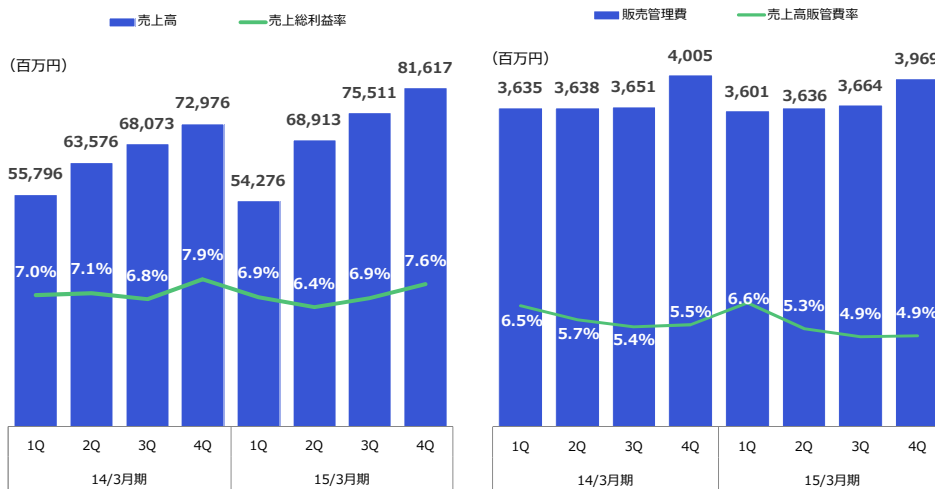
37

システム事業：主要取扱い製品

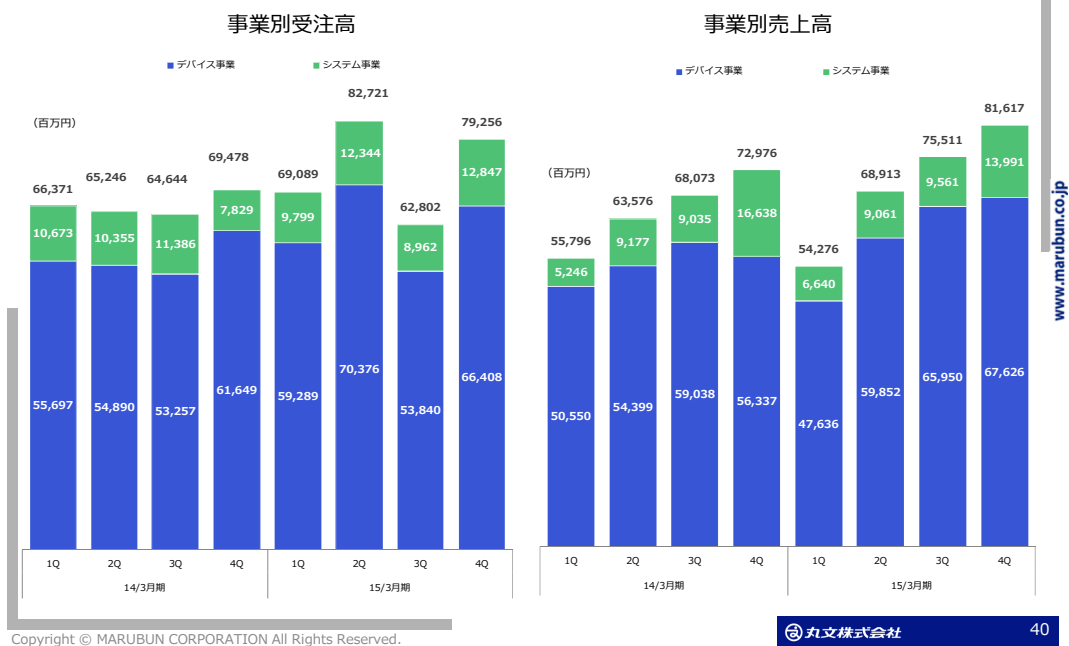
分野	主要取扱商品	主要仕入先
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems、Plascore、Lavision
	航空関連機器、高周波電子機器	CPI、L3 Communications
試験計測機器	検査装置・試験計測器	アキム、島津製作所、アーティセン、ADLINK
	ボードコンピュータ	セイコーエプソン、日本アビオニクス
科学機器	製造装置・組立装置	セイコーエプソン、日本アビオニクス
	MOCVD装置、MBE装置	AIXTRON、Riber
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	nLight、レーザーライン
	ネットワーク・光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、Excelitas Technologies
医用機器	画像診断機器	シーメンスジャパン、島津製作所、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス



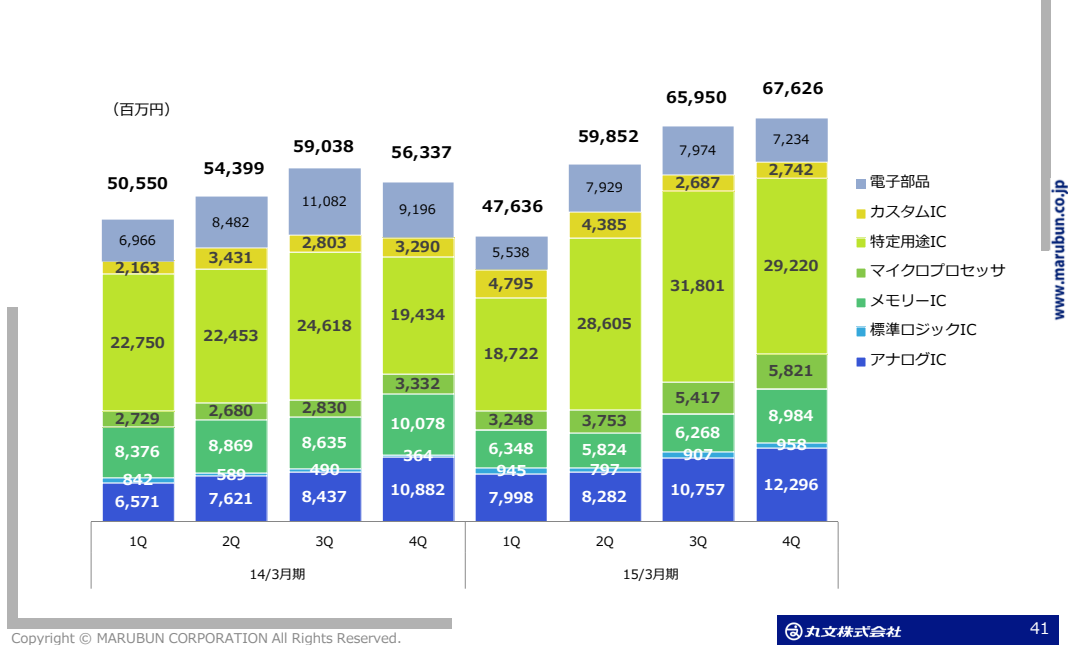
業績四半期推移（売上高・売上総利益・販売管理費）



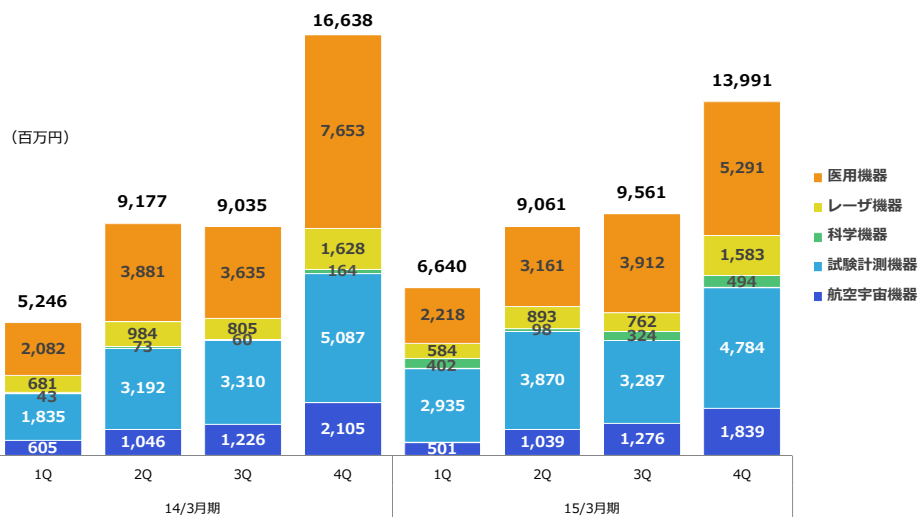
業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）



業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

42

本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性があります。ご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部
 TEL 03-3639-3010
 E-mail ir@marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

43